

GREEN RADAR

Vol.490
2020

3

Contents

令和2年度事業計画書

A-Policy【重点事業方針】

- ・令和元年度 生産販売部営業課 事業計画の進捗状況
- ・長野県JA葬祭虹のホールグループ インターネット広告の取組み

A-Reports

- ・第51回 信州フラワーショーウインターセクション 7
- ・JA長野県青年部協議会と意見交換会 8
- ・長野県産新米キャッシュバックキャンペーン 8
- ・第45回肉牛を育てる女性の集い 9

A-Board

- ・JA長野県ビル「食堂しなの木」が食の安心・安全五つ星店に！ 9
- ・JA全農長野の事業現況 10
- ・3月の動き 10
- ・3月のラジオ番組表 10
- ・編集後記 10



令和2年度事業計画書

令和2年 4月1日から
令和3年 3月31日まで

畜産酪農部

322億円

生活部

489億円

※総供給販売高には内部販売を含みます。

I J A全農長野基本理念

会員J Aとの一体的な事業運営により、生産販売から購買まで一貫する総合経済事業を通じて、J A組合員の営農と生活の向上に貢献します。

II 基本方針

1 国内農業を取り巻く環境は、農畜産物の輸入増加、需要の減少に加え、気象災害等による生産状況への影響が生じており、農業所得の確保が課題となっています。また、農業経営体の推移は、家族的経営体が減少する一方、法人等の組織経営体が耕地面積を拡大しながら増加し、大規模経営体と小規模経営体の二極化が一層鮮明になっています。

2 政府は、我が国の農林水産政策の指針である「農林水産業・地域の活力創造プラン」に基づき、農林水産業の成長産業化と将来にわたる農山村の継承をすすめるとしています。農畜産物貿易交渉については、TPP11ならびに日欧

EPAと相次ぐ大型協定が発効し、さらには日米貿易協定への署名など、かつてない自由貿易時代を迎えています。

3 農協改革においては、引き続き准組合員制度のあり方等が議論されることから、J Aグループとして予断を許さない情勢が続いています。また、長野県J Aの正組合員数は長期的に減少傾向にある一方、准組合員は増加傾向であり、今後ますます多様化する組合員ニーズへの対応をすすめる、J A経済事業を展開させる必要があります。

4 このような環境のもと、長野県本部は基本理念に基づき、「J A長野県長期構想・3カ年計画」との連動をはかり、J A経済事業の収支改善に積極的に関与し、農協改革の取り組みを加速化させるとともに、J A・県域および子会社の統一した戦略のもと、効率的な一体的事業運営体制により農業所得の増大および地域の活性化に取り組みます。

更に、県本部総合経営管理体制の堅持により、部門別事業競争力強化と経営基盤の確立をはかり、県域結集の拡大と結集成果を反映したJ A・組合員へのメリット還元に取り組めます。

【事業運営の基本目標】

1. 積極的な生産振興に基づく農業生産基盤の維持強化

2. 販売力強化とコスト低減による農家組合員の手取り最大化

3. 経済事業拠点の合理的・効率的な運営整備

【経営管理の基本】

経営管理体制の高度化と県本部総合経営管理体制の堅持

III 経営方針

1. 総供給販売高計画

生産振興部	2,769億円
生産販売部	2億2,000万円
生産購買部	1,591億8,000万円
生産購買部	364億円

2. 税引前当期利益

3億2千万円(税引後 1億9千万円)とします。

3. 奨励施策

施策の選択と集中をはかり、事業基盤の確立と担い手総合支援対策に資する重点的・効率的な事業奨励とします。

4. 事業管理費

業務の効率化により事業管理費の圧縮に努めます。

5. 機構・要員

J A・子会社との一体的な事業運営による農業生産基盤強化・販売営業力強化・購買競争力強化等の確実な実践をすすめるため、事業横断的な総合対応力が発揮できる効率的・機能的な機構・要員配置とします。

6. 施設投資・システム開発・外部投資

財務の健全性を基本に置き、事業の将来展望・戦略性および必要性・費用対効果・緊急性を十分検討し、投資回収基準(3年単黒・5年累積解消・10年投資回収)に沿ってすすめます。

～中期事業計画基本目標の展開方向～

生産基盤の強化

- マーケット・生産技術・資材情報の共有促進による営農指導事業の支援
- 災害に強い施設化推進のためのモデル実証圃場の取り組み拡大
- スマート農業の普及を目指した最先端農業機械等による生産技術デモ実演の展開
- 生産拡大に向けた低価格苗木の安定生産の取り組み強化

販売力・営業力の強化

- J Aと連携したバラ集荷ならびに買取集荷による販売力強化
- 実需者ニーズに基づく青果物の付加価値販売の強化
- 畜産における量販店と連携した固定価格販売の拡大
- J Aと連携した販売システムの構築による業務の効率化

生産コストの低減

- 段ボール・肥料の近似規格の集約と原紙・原料の集約によるコスト低減
- 肥料・農薬の県域拠点からの大規模農家への直送方式の拡大
- 農薬の大型規格の普及拡大による担い手支援
- 低価格モデル農機 of 取扱強化ならびに中古農機の流通拡充の取り組み強化

経済事業の収支改善

- 店舗商圏分析に基づくJ A資材店舗の再編提案と県域による補完機能強化による収支改善
- J A農機センター再編による収支改善と県域整備センターによる事業支援
- 生産資材システム 2011 とのデータ連携によるJ A業務の効率化ならびにデータ連携取引先の拡大

物流体制の整備

- 地域間連携輸送等による効率的な輸送体系の構築によるコスト抑制
- 米の物流効率化に向けた紙袋パレット輸送の拡大
- 青果物のパレット輸送に対応した段ボール規格等の集約

ライフラインの充実

- 組合員向け低圧電力供給体制の整備による「J Aでんき」の推進強化
- LPガスの事業体制整備による営業力強化
- 宅配事業におけるJ A配送体制の見直しならびに県域配送先拠点の再編等による収支改善

Ⅳ 事業方針

1. 農業振興事業

- (1) マーケットインとプロダクトアウトに基づく農業振興をすすめる、JAの営農指導と連携した多収性と労働力生産性向上が望める技術提案により生産規模の維持拡大に取り組みます。
- (2) 農業振興に連動した生産安定と収量増を目指した施設化を推進するとともに、災害に強い果樹の施設や野菜の養液栽培など普及技術の推進に努めます。
- (3) 労働力不足や高齢化に対応した農作業等の機械化をすすめるため、レンタル・リース事業の活用等を提案します。また、スマート農業の推進をすすめるため情報収集および活用に向けた圃場実証を始めます。
- (4) 農業振興を展開するため、産地のニーズに合った優良種苗の安定生産に向けた体制を強化します。
- (5) GAP基準の準拠をすすめる、安全安心システムの普及拡大等により安全安心な信州農産物の安定生産・供給体制の構築に取り組みます。

2. 生産販売事業

- (1) 主力品目の需要に見合った計画生産をすすめるとともに、実需者・市場からの情報に基づく生産販売企画の提案により、産地振興と集荷力向上をはかります。
- (2) 県本部としての営業力をさらに強化し、具体的な実需者に対する総合品目での取引拡大をすすめます。また、本会としての拠点市場を設定し機能の高い卸売会社との連携強化をはかるとともに価格向上に努めます。
- (3) 消費者、実需者ニーズに基づく付加価値商品の開発をすすめる、販売力の強化と農業所得の向上を目指します。県本部主体による集荷・加工（パッケージ）機能の拡充をはかります。
- (4) 広域的な視点からの集出荷体制の推進をはかるとともに、モーターシフトなど新たな輸送手段の導入や、パレット輸送、地域間連携輸送など効率的な輸送体系の構築により物流の安定化とコスト抑制をはかります。
- (5) 長野米の需要に基づく計画的な生産と系統結集をすすめるとともに、商品力と営業力の向上による農家

所得の増大に取り組みます。

3. 生産購買事業

- (1) 包装資材事業は、材質・規格の見直しによる集約化および製造・納品の効率化をすすめる、段ボール価格抑制に取り組みます。また、販売部署と連携し、青果物パレット輸送に向けて出荷資材の統一規格設定をすすめます。
- (2) 肥料農業事業は、B B肥料の原料集約・見直し、農業大型規格の拡充によるコスト低減と予約率向上対策による需要結集に努めます。また、大規模経営体への直行配送方式の拡大や土壌診断に基づく「わたしの肥料」の提案推進などに取り組みます。
- (3) JA資材店舗・物流拠点の再編・整備では、店舗商圈分析に基づく提案や県域による補完機能強化に取り組み、JAの事業収支改善に努めます。また、JAの発注・仕入業務効率化に向けたシステムの普及拡大をすすめます。
- (4) 農業機械事業は、低価格モデル農機の共同購入、県内需要に見合った県域推奨型式の機種拡大、中古機流通拡充に向けた玉確保強化お

よび生産振興に資するレンタル事業の促進に取り組みます。また、整備事業体制（JA・県域）の構想策定をすすめる、JA農機事業の収支改善を目指します。

(5) 施設住宅事業は、施主代行を基本として一級建築士事務所による専門性を発揮した設計・工事監理に取り組みます。また、コンサルタント機能向上による農業施設の高度化・再編への対応ならびに組合員ニーズに応える住環境改善事業に取り組みます。

4. 畜産酪農事業

- (1) 生産基盤を維持し販売数量を確保するために、空き畜舎の活用による生産補完体制の取り組みをすすめるとともに素畜・初妊牛供給体制の強化をはかります。
- (2) 信州産畜産物のブランド力向上による販売強化や、信州産生乳の一元集荷多元販売による有利販売と、生産性向上により農家所得の増加を目指します。
- (3) 県本部生産農場は、和子牛や乳用初妊牛の県内供給、肥育素子豚の安定生産、預託牛事業などを通じてその機能を十分に発揮し、県内

生産基盤の維持拡大に貢献します。

(4) 営農指導体制強化ならびに生産基盤対策のため、JAとの連携一体化した事業展開をすすめます。地域畜産酪農営農センターは、その機能強化をはかります。

5. 生活事業

- (1) 燃料事業は次期事業体制の検討をすすめます。また、石油事業は、数量を背景とした仕入強化と農業用燃料支援対策の実施とともに、灯油戸配送の効率化と顧客推進強化に取り組みます。LPガス事業は、単位消費量増加のための営業体制の強化と保安の確保に取り組みます。また、組合員向け電力供給の拡大をすすめる、灯油・ガスも合わせたホームエネルギーとしての事業構築をすすめます。
- (2) SS協同経営事業は、燃料油およびカーメンテ収益の確保およびJAとの連携をより強化し、収支改善に取り組みます。また、基本接客、SS活動を生かした店舗作りと計画的な研修による人材育成をすすめます。
- (3) 自動車事業は、営農車2銘柄扱いの検討をすすめるとともに、次世

代技術の実用化に対応できる販売・整備体制の構築に努めます。

- (4) 宅配事業は、おまかせ会員戸数の維持に向けたPRおよび推進と業務効率化をすすめる収支改善をはかります。また新たな顧客層開拓にむけたeコマース（電子商取引）活用による事業方式構築をすすめるとともに事業の将来的方向性の検討をすすめます。家庭薬事業は、組合員の健康増進に係る事業として普及推進体制の強化と新たな事業体制にむけた協議をすすめます。
- (5) セレモニー事業は、「JA総合事業」と「JA虹のホールグループ」が連携する葬儀相談体制およびPR強化と、次世代の組合員・利用者の利用につながる統一活動をすすめます。

6. 経営管理

- (1) 県域結集および事業競争力の強化によるJA・組合員へのメリット還元を基本とする県本部総合経営管理を堅持します。
- (2) 事業環境の変化を踏まえた県本部機能に見合う部門別収支の検証と見直しにより、事業管理費の精査および管理コストの節減に努め、

経営の安定化をすすめます。

- (3) 業務に係る法令研修や相談機能を充実させるとともに、一斉事業点検検証や業務点検を通じて、コンプライアンスの態勢強化と重点管理すべきリスク（法令違反、労務管理、労働災害、個人情報管理等）の未然防止を推進します。
- (4) 県本部総合経営管理体制を担う業務体制を効率化するとともに、職員の能力開発・人材育成をはかり、JA・子会社との一体的事業遂行および自己改革の実践のための多様な雇用形態による要員体制を確立します。併せて、働き方の見直しを行い、適切な労務管理を実践します。
- (5) JA長野県グループおよび行政機関等との連携を強化し、効果的な広報活動と、地域に貢献する組織広報をすすめます。県内プロスポーツ選手等の活用により県産農畜産物の宣伝・PR活動に取り組みます。
- (6) 子会社は、内部統制システムの整備およびコンプライアンス態勢の推進による健全経営管理をはかるとともに、JA経済事業の補完機能強化をすすめます。



営業課

令和元年度生産販売部営業課
事業計画の進捗状況

〔令和元年度事業概要〕

令和元年度事業は、供給高計画160億円を目標に、果実、野菜、きのこ、花きの各品目で事業推進して参りました。

取引先や実需者（生協・量販店・業務加工需要者等）と連携し、既存取引品目の売場確保と拡大、品目横断的な営業推進による、新規品目の提案を進めました。また、他部署とも協力し、新規顧客の獲得と供給ルートの開拓に努めました。

果実は既存企画の継続と新規品目の提案に努めましたが、天候不順による集荷数量の減少、販売価格の値上げによる受注数量の落ち込み、台風19号による被災の影響もあり、非常に厳しい年となりました。

野菜は相場安の影響による単価安はありましたが、重点実需者中心に契約取引による安定供給、責任供給に努め、あわせて新規実需者・量販店への推進により前年並みの取扱高は確保できる

見込みとなりました。

きこは企画提案の徹底と新規取引先の開拓をすすめ、年間を通じて売場が確保されるよう営業展開に努めました。一方、大口量販店のアイテム整理の影響や産地価格の上昇など、販売推進の難しい年となりました。

花きは既存品目の取引拡大や新規品目の提案、新規取引先の獲得により販売実績を伸ばしました。

〔令和元年度重点取組事項〕

1. 生産者手取りの最大化に向けた販売力の強化

総合品目供給産地としての強みを生かした営業展開を基本に、既存の重点実需者・帳合先との関係を強化し、積極的な推進を図ってまいりました。品目固有の宣伝会はもちろんのこと、信州フェアやトラックセールなど集客力あるイベントなどを実施し、品目横断的な販促活動を展開してきました。

また、既存の流通ルートに拘らない

新規顧客の開拓・品目拡大を積極的に行い、新規取引先9件、品目拡大・供給エリア拡大5件、市場流通からの切替え8件の成果が得られました。



2. 商品開発力・提案力強化による販売拡大

委託取引先との連携により、新規パッケージ商品の開発・提案を行い取引量拡大に努めてまいりました。

また、品目課と協力し、新規加工製品の販売、加工原料果実の集荷・販売に取り組みました。

3. マーケティング情報に基づく生産販売提案の取り組み強化

営業日報システムの活用により、県本部内の情報共有を図り、効果的な営業推進活動に取り組みました。

品目課や生産振興部・事業所等と連携し、実需者が求める品目の作付け提案、新規産地の開拓提案を行いました。

4. 集出荷・輸送・荷卸の効率化

特定取引先と協力し、直販取引におけるパレット輸送、レンタルコンテナによる納品を実施しました。

生活課・
株長野エコープサブライ長野県JA葬祭虹のホールグループ
インターネット広告の取組み

「長野県JA葬祭虹のホールグループ」（事務局／長野県農協生活事業推進協議会葬祭研究会）では、統一PR活動の一環として、インターネット広告によるPR活動を強化した取組みを実施しています。

ネット社会における現代のPR方法として、新聞広告やテレビCMなどのマスメディアだけでなく幅広くPRしようとして、インターネット広告を平成29年度に試行運用、平成30年度には本格運用を開始し、今年度は2年目の取組みとなりました。

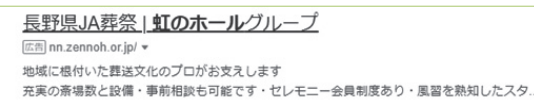
インターネット広告とは、インターネットにおけるWebサイトや検索エンジンを活用した広告で、虹のホールグループでは、検索エンジンの検索結果に表示するリスティング広告という手法を用いて展開しています。

広告内容は「画像広告」や、検索時画面に表示される「文字広告」となります。「画像広告」はYahoo!のトップ画面右上をイメージしていた

画像広告の一例



文字広告の一例



くと良いかもしれません。

※リスティング広告／検索連動型広告。指定したキーワードで検索したユーザーを対象に広告配信する。

インターネット広告を実施するメリットは、幅広いPR方法以外にも広告実績の分析ができる点があります。昨年度（2018・06～2019・02）のWeb上への広告表示は合計4,472,025回となりましたが、今年度（2019・06～2019・12現在）

は取組み強化もあり合計7,227,137回と1.6倍となりました。

また、「長野県JA葬祭虹のホールグループ」ホームページへの地域別のアクセス数は、長野県45・5%、東京都21・9%、大阪府8・5%、神奈川県5・1%、愛知県4・2%となっています。インターネット広告は、県外在住者からのお問い合わせ窓口機能としても活用されています。この他にもホームページでは「端末別アクセス」「世代別アクセス」「Web上からの電話連絡」などの分析ができ、インターネット広告と連動した取組みとなっています。

近年の小規模葬の拡大、ネット系葬儀の台頭など多様化する葬儀業界において、環境が大きく変わることにも対応できるインターネット広告を配信することで、JA葬祭の認知度の向上や選択肢となるようにPRを強化するとともに、顧客満足度向上に努めてまいります。

JA虹のホールホームページのトップページ



第51回 信州フラワーショー ウィンターセレクション

農林水産大臣賞はJ A上伊那の 有限会社末広農園(アルストロメリア)が受賞

J A全農長野とJ A全農長野花き専門委員会は1月30日(木)と31日(金)の2日間、伊那市のJ A南信会館で「第51回 信州フラワーショー ウィンターセレクション」を開催しました。

近年の気候変動、とりわけ今年は暖冬傾向により栽培管理が難しい中、昨年の出品数を上回る381点(昨年369点)が出品されました。いずれも甲乙つけがたい出品物でしたが、その中でJ A上伊那の(有)末広農園が出品したアルストロメリア「ピンクティアラ」が最高賞の農林水産大臣賞を受賞しました(写真Ⅱ表紙右上)。

出品数の6割をアルストロメリアが占め、全体的なレベルが高く、特に(有)末広農園のアルストロメリアは発色が良く、草姿のバランスが良いと評価されました。



農林水産大臣賞を受賞したアルストロメリア「ピンクティアラ」

また、県内若手花き生産者が参加し、将来の需要創出、消費拡大を狙った「花育」も実施しました。生産者は、地元の小学生を招待したフラワーアレンジメント教室の講師や、保育園児を招待した会場見学の説明などを通して、子供の頃から花に親しんでもらおうと取り組みました。花育終了後には県内で生産された鮮度抜群の切り花をプレゼントしました。お子さんが持ち帰った花を囲みながら、家族の会話もはずんだことと思います。

信州フラワーショーは、「生産者の栽培技術を競い、技術工場と本県花き産業の振興を図る」ことを目的に、毎年夏と冬に開催しています。今後も長野県産花き類の生産振興と生産技術の向上、消費拡大につながる取り組みを進めます(会場写真Ⅱ表紙左上)。

分科会で活発な意見交換

「J A長野県青年部協議会と意見交換会」

J A全農長野は2月7日(金)、J A長野県青年部協議会(県青協)との意見交換会をJ A長野県ビルで開きました。地域農業の担い手である県青協の役員や全農長野の役職員55名が出席しました。

今年度は作物別のテーマに基づき、分科会方式での意見交換となりました。果樹の分科会では「今後のブランド化およびプロモーション戦略について」「災害対策について」、水田の分科会では「スマート農業について」、野菜花きの分科会では「消費宣伝PR活動について」、畜酪分科会では「家畜防疫・国際貿易・生産環境について」などのテーマについて活発な意見交換がされました。

分科会毎の意見発表において、SNSなどのメディアを活用した産地宣伝が必要」、「ドローンなどの最先端技術の実演会を実施」、「災害における苗木

や資材支援を要請」「国政への要請活動」など、青年部と全農長野が互いの立場を理解し、建設的な意見が多く出されました。

最後に、全農長野の岩崎直樹生産販売部長ならびに平林務畜産酪農部長より意見発表の講評と日頃の生産努力に対して感謝を述べるとともに、今後一層の連携と協力をお願いしました。一方、県青協の柿島洋一会長からは「今年度は2回の意見交換会を実施した。回を重ねる毎に情報共有が深まっている。我々は協同組合として力を合わせて伝えるべきことはしっかりと伝えていく必要がある」と力強い言葉がありました。



活発な意見交換をした分科会



情勢報告をする高田副本部長



開会のあいさつをする柿島会長

表紙右下の写真／分科会後の全体意見交換

(敬称略)

第51回信州フラワーショー ウィンターセレクション入賞者

賞	品目名	品種名	受賞者	J A名
農林水産大臣賞	アルストロメリア	ピンクティアラ	(有)末広農園	上伊那
農林水産省 生産局長賞	アルストロメリア	ゴールド	伊藤 哲	上伊那
農林水産省 関東農政局長賞	アルストロメリア	ミストラル	(有)信州グリーンサポート	上伊那
全国農業協同組合連合会長賞	ダリア	詩織	大平 正彦	上伊那
長野県知事賞	アルストロメリア	ペルリガ	丸田 旭雄	上伊那
日本花き卸売市場協会会長賞	アルストロメリア	ミストラル	伊藤 九次	上伊那
フラワー産業 議員連盟会長賞	アルストロメリア	ジャイアントレングス	市川 征一郎	佐久浅間
長野県農業協同組合中央会長賞	アルストロメリア	パティ	有賀 美和	上伊那
全国農業協同組合連合会長野県本部会長賞	アルストロメリア	ピンクサブリズ	飯島 守	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	ホワイトベル	赤羽 今男	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	マティニ	平出 千里	信州諏訪
伊那市長賞	アルストロメリア	セイシエル	阿部 和博	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	カステル	小笠原 秀樹	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	ゴルド	西村 幸恵	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	ブライズメイト	篠原 万郎	信州諏訪
伊那市長賞	アルストロメリア	ピンクティアラ	酒井 弘道	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	ミストラル	上原 亮一	信州諏訪
伊那市長賞	アルストロメリア	ミッシュ	玉置 勤	みなみ信州
伊那市長賞	アルストロメリア	ミストラル	小林 純也	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	ボンボンマルヴァ	榎フロムシード	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	アムジスト	畑 隆之	佐久浅間
伊那市長賞	アルストロメリア	エレガンス	中原 睦男	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	ピンクサブリズ	矢野 源彦	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	ハニソフィア	矢崎 深志	信州諏訪
伊那市長賞	アルストロメリア	マッサ	西尾 裕幸	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	ベルガ	上條 誠司	松本ハイランド
伊那市長賞	アルストロメリア	ピンクティアラ	塩原 喜久子	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	ホットベッパー	紫芝 孝幸	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	モナリザ	伊藤 孝一	信州諏訪
伊那市長賞	アルストロメリア	東海桜	柴田 正行	佐久浅間
伊那市長賞	アルストロメリア	アイアンホワイト	保野 秀樹	信州うえだ
伊那市長賞	アルストロメリア	ジャイアントレングス	須田 民恵	佐久浅間
伊那市長賞	アルストロメリア	アスリートエロ	高橋 弘	信州うえだ
伊那市長賞	アルストロメリア	アカメヤナギ	小坂 大介	ながの(みゆき)

長野県産新米キャッシュ バックキャンペーン

全国から11,984通の応募をいただきました

J A全農長野米穀課は、新米が出回る昨年10月から12月に「長野県産新米キャッシュバックキャンペーン」を行い、全国から11,984通の応募をいただきました(前回キャンペーン11,130通)。

キャンペーンは、新米の袋に貼ってあるキャンペーンシールのシリアルナンバーを2つセットで応募すると、抽選で300名様に10,000円分のお米券、外れた方の中から100名様にダブルチャンスでレンジでもコンロでも使える1合炊き鍋をプレゼントするという内容でした。キャンペーン専用ウェブサイトで「長野米がおいしいヒミツ」や学生・お子さんといったターゲットごとにレシピを紹介し、消費拡大につなげました。

抽選は2月13日(木)の食糧専門委員会で行い、当選者が決定しました。

米穀課では、長野米のより一層の消費拡大をすすめるため、有効な企画を今後も実施していきます。



第45回肉牛を育てる女性の集い

フリーパーソナリティー、坂ちゃんの講演会も！

JA長野県・信州肉牛生産販売協議会とJA全長野は1月28日(火)と29日(水)の2日間、千曲市の上山田温泉で「第45回肉牛を育てる女性の集い」を開き、肉牛の肥育や繁殖を手掛ける50名の女性が参加しました。この集いは、日頃、飼養管理等でゆっくりと出かけられない皆さんが1年に一度集まり、研修や情報交換を通じて連帯感を高めると同時にリフレッシュしていただくことを目的としています。

今年は事例発表として、上伊那農業高校の畜産班の生徒が、鹿肉を使った地域の新しい特産品作りによる移住定住のきっかけ作りの活動について発表しました。同校は、校舎の一部を改修し、食肉製品製造所の許可を得て、個体差のばらつきが大きい野生鹿肉を、解体から仕上げまで生徒が行い、安心しておいしく食べられる半乾燥の製品を完成させました。ホルスタイン種の牛肉でも同様に取り組み、都内のイベント等で販売しながら商品性を向上させ、「都会から人を呼び込むにはまず地域の中がより強く楽しくつながる必要がある」と発表しました。(写真＝表紙左下)

参加者の皆さんは、高校生との交流の時間もあり、「今の高校は面白いことをやっている」「女子生徒が頑張っていて頼もしい」と相好を崩しました。



高校生も参加した分科会



坂橋さんの講演

講演会にはフリーパーソナリティーの坂橋克明さんをお迎えし、「笑ってすぐだせ、元気だせ」と題し、「前向きなことを使う大切さ」を講演していただきました。坂橋さんは、JA長野県グループが提供するラジオ番組のパーソナリティーでもあり、生産者の皆さんにはおなじみの「声」です。29年間、レギュラー番組を続けている坂橋さんの番組エピソードや長野県人の「あるある」を交えたお話で、会場は笑いに包まれました。

畜産酪農部の平林務部長は「皆さんの日頃の努力のおかげで信州産肉牛は、県内はもとより京都・大阪でも高い評価をいただいている。事務局では皆さんに楽しんでいただけるように毎年企画を工夫しているので、ここで英気を養い、明日への活力にしていきたい」と話していました。

3月の動き

3月1日(日)	松本山雅FCホームゲームイベント (きのこPR、ベンチコート贈呈) サンプロ アルウィン(松本市)	総務広報課
3月1日(日)	令和元年度 第14回長野米カップ 長野県小学生バレーボール大会 ことぶきアリーナ千曲 など	米穀課
3月18日(水)・ 23日(月)	子会社臨時株主総会・取締役会 JA長野県ビル、JA中信会館	改革推進 ・企画課
3月26日(木)	会員会議 JA長野県ビル	総務広報課
3月31日(火)	定年退職者辞令交付式 JA長野県ビル	人事課
4月1日(水)	新採用職員入会式 JA長野県ビル	人事課

3月のラジオ番組表

放送日時	放送局	番組名	放送内容(予定)
3月25日(水) 11:50	SBC ラジオ	坂ちゃんの ずくだせえぱりでい内 「暮らしの応援団」	野菜花き課
毎週火曜日 16:10	SBC ラジオ	情報わんさかGO!GO! ワイドらじ☆カン内 「ミルクマガジン」	信州の牛乳・乳製品に関する様々な 情報をお届け。リスナープレゼント もあります。

JA全農長野の事業現況

令和元年度 1 月末部門別実績表 (単位: 百万円、%)

区分		実 績	計画比	前年比
部門				
野 菜 種 苗 セ ン タ ー		154	87	90
生 産 振 興 部 計		154	87	90
米 穀		15,726	100	103
果 実		34,508	99	98
野 菜 花 き		58,180	89	88
き の こ		16,204	89	99
営 業		12,000	83	95
生 産 販 売 部 計		136,619	92	94
包 装 資 材		7,416	95	101
生 産 資 材		9,786	103	97
農 業 機 械		5,633	93	91
施 設 住 宅		5,566	130	156
生 産 購 買 部 計		28,401	103	104
畜 産		11,004	102	95
三 岳 牧 場		279	110	102
SPF 繁殖センター		251	100	96
酪 農		15,190	98	98
八 ケ 岳 牧 場		206	95	103
畜 産 酪 農 部 計		26,931	100	97
燃料・ホームエネルギー		20,911	96	93
S S 協 同 経 営		9,160	97	94
生 活		9,882	99	99
生 活 部 計		39,952	97	95
長 野 県 本 部 計		232,057	95	95

(内部販売高含む)

編集後記

この冬は異常気象の影響なのか1月は平均気温が3度も高く、雪もあまり降らない状況でした。生活するのには寒くないし、雪かきも少なく楽ですが、報道等では春からの水不足が取り沙汰されています。農産物に与える影響が心配です。

帰宅時、星を眺めると、やっぱり冬の夜空は空気が澄んでおり星がよく見えます。前から話題になっていますが、オリオン座の三つ星左上のベテルギウスと呼ばれる赤く輝く星がどうも明るさが急速に暗くなり過去50年間で最も暗くなっているらしいです。昨年12月頃から通常の範囲を超えた暗さになっており、超新星爆発前ではないかと推測されています。ベテルギウスは太陽の1000倍の直径を持つ一等星で、爆発すれば月の100倍ほどの明るさとなるそうです。地球との距離は640光年、今爆発の光が観測されても室町時代に消えたことになりました。なんとも感慨深い、宇宙スケールと比較すると人生ほんの僅かな時間を再認識する次第です。夜空を眺めてみてはいかがでしょうか。

(Y)

県内初!

JA長野県ビルからのお知らせ

JA長野県ビル「食堂しなの木」が食の安心・安全五つ星店に!

JA長野県ビル13階にある「食堂しなの木」が、HACCP(ハサップ)の手法に沿った衛生管理実施店であると判定を受けました。2018年6月13日に「食品衛生法等の一部を改正する法律」が公布され、原則としてすべての食品等事業者はHACCPの手法に沿った衛生管理の制度を義務付けられました。しなの木では、2020年6月1日の改正法施行、2021年6月1日の義務化に先んじての対応となります。

HACCPとは、食品関連事業者自らが食中毒原因菌による汚染や異物混入等の危害要因を把握し、原材料の受け入れから製品の出荷に至る全工程の中で、危害要因の除去や低減をするため、特に重要な工程を重点的に管理し、製品の安全性を確保しようとする衛生管理の手法です。HACCPは加工食品のみに対応したものではなく、食品関連事業者は、自分たちが提供するものを、消費者が安心して食べることができ

るよう高い意識で衛生管理に取り組むことが求められていることから、飲食店などでも運用は可能であるとともに、今後はHACCP対応せざるを得ない状況です。

改正食品衛生法により、「食堂しなの木」の運営・設備に関して整備が必要になるため、対応について研修会への参加、保健所の指導、食品等事業者団体(公益社団法人日本食品衛生協会)への加盟・事業参加等の対応を進め、この度、(公社)日本食品衛生協会の衛生対策の事業である「食の安全・安心・五つ星事業」へ参加・判定を受けました。

JA全農長野は「食堂しなの木」に、季節に応じた野菜や果物の提供し、キャンペーンのタイアップレシピをメニューに提案するなど、利用者の皆さんに旬の味をPRしています。

小平奈緒は、 「信州」を食べて 育ちました。

スピードスケート
小平奈緒 選手
所属:相澤病院(松本市)



光と風と水のハーモニー
JA全農長野

グリーンリーダー3月号(毎月発行) 2020年2月20日発行
発行/ JA全農長野 長野市大字南長野北石堂町1177番地3 第490号
発行人/ 小林哲男 印刷/ PO印刷株式会社 長野市青木島3丁目3番地3



光と風と水のハーモニー
JA全農長野

JA 全農長野ホームページ…………… <https://www.nn.zennoh.or.jp>
インターネットで産地直送「JA タウン」…………… <https://www.ja-town.com>

